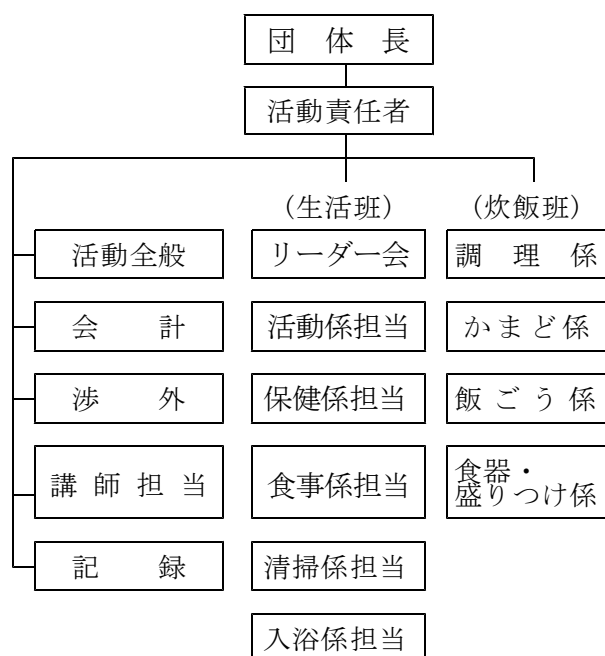


V 活動プログラムの作成

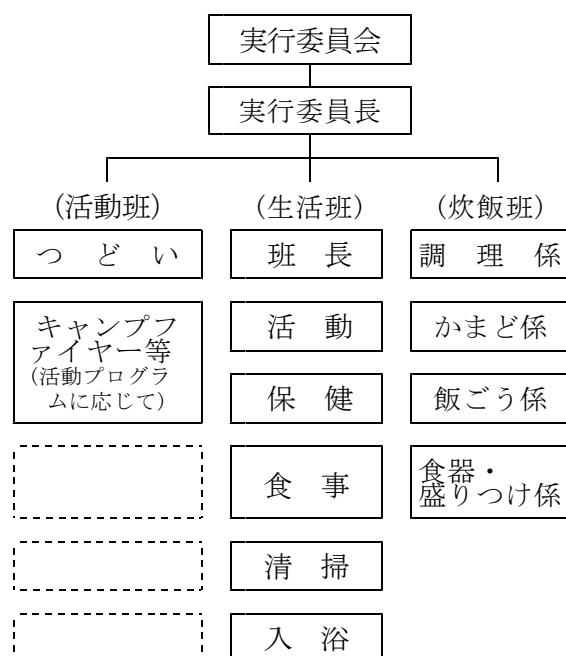
1 作成にあたって

- (1) 団体としての明確なねらいをもち、その目標を達成できる活動プログラムを立案してください。
- (2) 時間的に余裕のあるプログラムを心がけてください。
- (3) 活動プログラムは活動責任者等が中心となって作成し、その中で子どもたちが、自発的、主体的に活動できるようご配慮ください。
- (4) 子どもたちが協力し合う活動場面を設け、充実感が味わえるように工夫してください。なお各市町村生涯学習課等に連絡し、ジュニア・リーダー等の協力を得る方法も考えられます。
- (5) 引率者や子どもたちの役割分担を明確にしましょう。特定の引率者だけに、仕事が集中しないように、準備段階から組織作りをしっかりとしましょう。
- (6) 登山の実地踏査や野外炊飯、スキー活動等の事前研修を行うと、より具体的なイメージづくりができ、子どもたちに対して説得力のある説明ができます。
- (7) 実際の活動場面では、引率者が主体的に子どもたちの指導にあたってください。不明な点は所員に相談ください。

引率者の組織 例



児童・生徒の組織 例



2 つどいの実施

- (1) 自然の家では、入所の心構えや生活の振り返り、活動への意欲付け等を目的に、であい・夕べ・朝・わかれの4つのつどいを実施します。
- (2) つどいの実施は強制ではありません。内容は、各団体のオリジナルでも構いません。ただし、初日のつどいで生活の仕方やベッドメイキングについて説明いたします。
- (3) つどい等で上手に発表できると子どもたちの自信につながります。事前指導をお願いします。
- (4) 「であい・わかれのつどい」で団体旗の掲揚・降納を行う場合は、団体で補助をお願いします。担当者を決めておいてください。
- (5) 所歌の斉唱は1番のみです。
- (6) 複数の利用団体がある場合は、「であい・わかれのつどい」をできるだけ同じ時刻に合同で行うように、利用事前研修会で調整し、計画を立案してください。